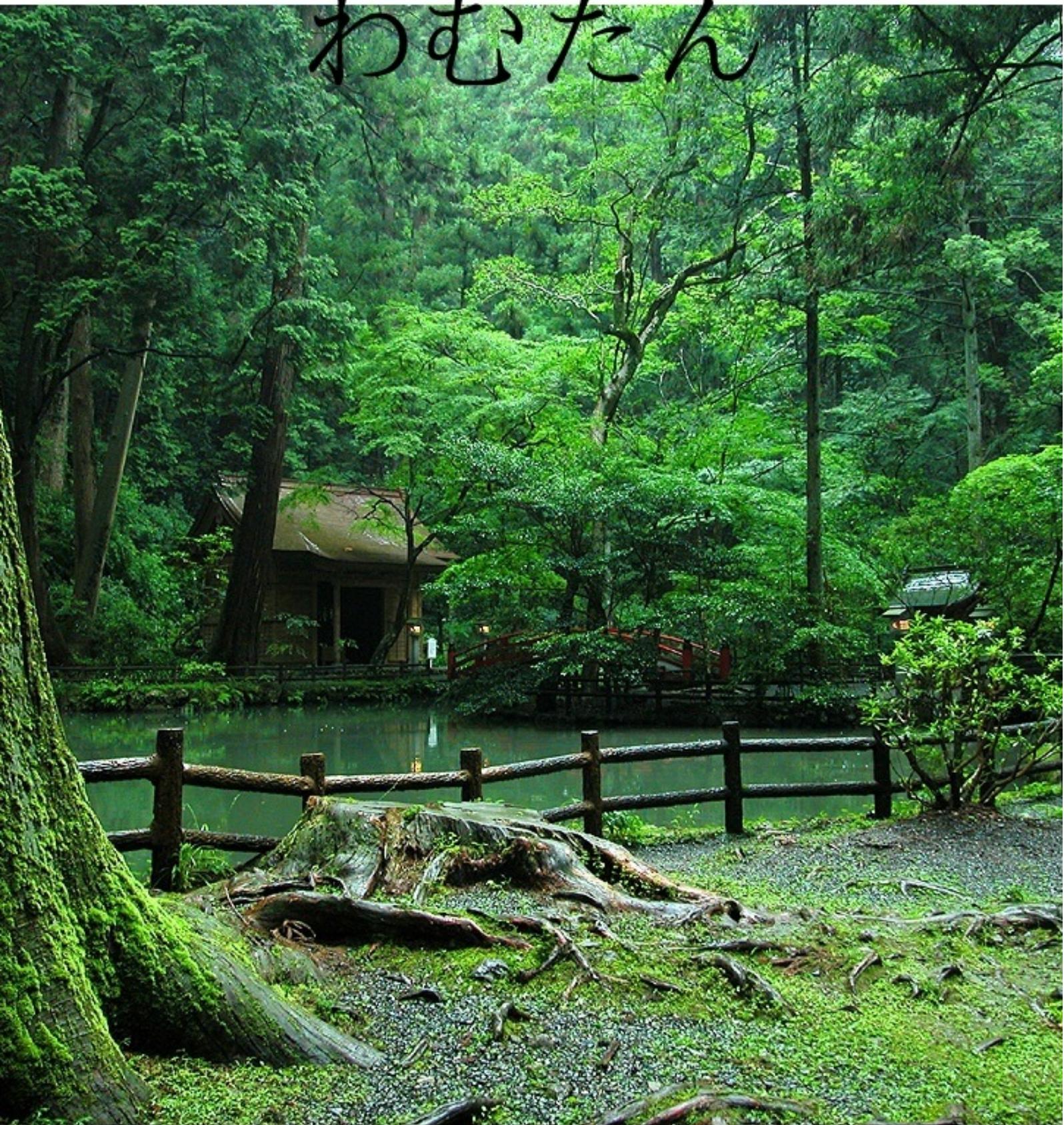


靈驗導師 わむたん



千葉 広明

第一章 黄金の光

「ギャウオン……」

ドラゴンの右肩に閃光が走った。

もんどりうって倒れこむ。

「ふふふ……大人しくそいつを渡せば痛い想いをしなくて済むのに」

黒い顔をした羽のある生き物。

「それぞれ、何千年に一度しか産まれないという黄金の卵。」

「そいつが欲しくて、来てやったのさ……ふふふ」

「これは私の大切な赤ちゃん。」

母ドラゴンの口から、霧のブレスが放たれる。

この霧の靄を浴びればひとたまりもなく敵は溶解する。

「そんなものがこのベリアルさまに効くと思うのか」

羽を激しく上下に振ると、霧は飛散した。

「これがとどめの一撃だ！」

羽のある生き物の口から吐き出されたレーザー状のものが、ドラゴンの胸を貫いた。

ドラゴンの母親は、気を失って横になった。

羽のある生き物が、ドラゴンのお腹の下の黄金の卵を奪おうとした時、

「やめろ！」

声が響いた。

羽のある生き物が振り向くと、宮司服を着た男の姿が見えた。

「キキキ・・・俺様にはむかおうとは頭が変なのでないかね・・・キキキ」

「まさかその手に持っているおはらい棒で殴ろうというのじゃないだろうな・・・キキキ」

わむたんがその手に持っているおはらい棒を天に翳すと、シュルシュルシュルと紙の部分が螺旋状に棒に巻き付いたかと思うと光る物に変化し、その光の中から古い剣のような物が現れた。

「ご先祖様伝来の霊剣あまのむらくものつるぎ！またの名を草薙の剣だ！」

この霊剣はわむたんの霊力により、色々な姿に変化する。

町の中では、おはらい棒の形に変えて持ち歩く事にしているのだ。

「ふふふ・・・そんなおもちゃで俺様と戦おうと言うのか・・・ははは」

その瞬間羽のある生き物が口から閃光を吐いた。

その閃光はわむたんの左肩をかすめた。

わむたんの宮司服が破れ、鮮血が噴出した。

「う・・・」

一瞬ひざまずいたわむたんになおも閃光の嵐が降り注ぐ。

「まずい・・・ご先祖様の霊毛が編みこまれた宮司服が衝撃の緩衝になってくれてはいるものの、このままではやられてしまう。」

その時である。わむたんの周りに黄金の光が現れた。

その光を良く見るとこれは霧ではないか。

「うん？」

「キャ～、キャ～、キャ～」

可愛い声が聞こえる。

母ドラゴンの方だ。

気を失っている母ドラゴンのお腹の下の黄金の卵だ。

その先端部分が割れて金色のチビドラゴンが頭を出しているではないか。

そして口から黄金の霧のプレスを吐いている。

わむたんの全身が黄金の光で包まれた。
まるで球体の鎧のようである。

「魔閃光！」

羽のある生き物の口から吐き出された無数のビームはわむたんの黄金の球体を襲った。

パシッパシッパシッ

黄金の球体がビームを吸収して、わむたんに届かない。

「うぬぬぬ・・・このチビめ！」

ベリアルが憤怒の形相で怒りの矛先をまだ産まれたばかりのチビドラゴンに向けようとしたとき、

「聖十字剣！！！」

わむたんが、あまのむらくものつるぎを横方向の水平に1回、そして縦方向の垂直に1回つまり十字型に目にも留まらぬ速さで振り下ろした。

あまのむらくものつるぎの刃から水しぶきが飛び散った。

十字型の風圧がベリアルを襲う。

「ぎゃあああああ・・・」

ベリアルはよけたものの右側の羽の3分の1程が吹き飛んだ。

「今度会った時は、その体を引き裂いてやるからな！」

ベリアルが円を描く仕草をすると、次元障壁の扉が開いた。

「逃がすか！」

わむたんがすかさずスラッシュを放つが、もうすでにベリアルの姿がない。

「どこにでも次元障壁の扉を出せるなんて、恐ろしいやつだ。」

わむたんはそうつぶやくと、倒れている母ドラゴンと産まれたばかりのチビドラゴンの所に向かった。

母ドラゴンは横になり目をつぶったままだ。

わむたんは紫蝶々の燐粉と撫子マイマイの貝殻から作った万能薬を母ドラゴンの傷に塗ろうと取り出した。

「駄目です。」

母ドラゴンは悲しげにその手を制した。

「わむたんさん、これをお持ちください。」

母ドラゴンの閉じられた目から一粒の涙がこぼれ落ちると、凝縮して乳白色の玉になった。

「この竜の玉を使えば、あなたの世界に私のチビちゃんを呼び出すことが出来るでしょう。チビちゃんを頼みます。」

そう言うと、チビドラゴンの頬をそっと優しくなめた。

「ママ～」

チビドラゴンは甘えるような声を出している。

「私の可愛いチビちゃん。あなたの事をいつも見守っているわ。」

母ドラゴンは動かなくなった。

「ママ～、ママ～、ママ～・・・」

むなしくチビドラゴンの声がこだまする・・・

霧の谷に落日の光の影が伸び、霧が立ちこめる中立ちすくむわむたんの姿があった。

霊験導師わむたん

<http://p.booklog.jp/book/74471>

著者：千葉 広明

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/soranoniji/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/74471>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/74471>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ